USPTO、新たな特許審査研修プログラムを開始

2026年3月3日
JETRO NY 知的財産部
蛭田、赤木

USPTOは、2月26日、特許審査の品質向上を目的とした新たな研修プログラム「Learning from Outcomes to Optimize Patents（LOOP）」を開始する旨公表した[1]。

USPTOによれば、本研修プログラムでは、特許審査部とPTABとの連携の下で、①特許審査の好事例と、②PTABにおいて覆されうる審査事例の双方を題材として、特許審査部の管理職やPTABの審判官により、特許審査のベストプラクティスについて月次で特許審査官に向けて研修が行われることとなる。2026年2月より開始された本プログラムは、後に権利の有効性を判断する立場にあるPTABからのフィードバックに基づいて、審査段階でより強固・安定的な特許権の付与を行うようにすることが狙いとされている。

USPTOは、本プログラムについて、民間と特許審査官との間の先行技術文献調査手法に関するギャップを埋めるためにPTABで既に実施されている情報開示に関する取り組み[2]から派生したものであると説明している。
各種取り組みを通じて蓄積される情報・データは、特許審査官の育成のほか、AIを活用した検索ツールの改良などにも活用される。USPTOは、2025年10月開始のAIツールを用いた自動先行技術調査の試行プログラム（ASAP!）[3]といった他の既存の取り組みとも併せて、USPTOにおける特許審査に関する品質の向上・効率化につなげたいとしている。

USPTOが通常年2回実施・公表している特許審査の品質に関する外部ユーザー向け調査の結果[4]が2025年度以降公表されていない中、特許審査官ごとの審査のばらつきを指摘する声も知的財産関係者から聞かれるところ、特許審査の品質向上に向けた取り組み・動向が注目されている。

（以上）

---

[1] USPTO further enhances examination quality feedback "LOOP" with collaborative learning series launch
[2] https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Ipnews/us/2025/20251118.pdf
[3] https://www.jetro.go.jp/ext_images/_Ipnews/us/2025/20251008.pdf
[4] USPTOによる特許審査の品質に関する外部ユーザー向け調査結果（2024年10月）